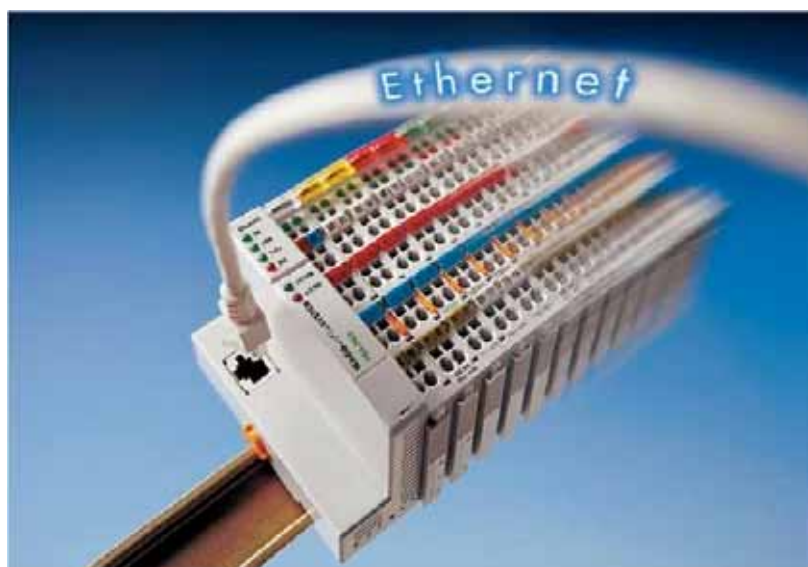


WAGO → I/O → SYSTEM 750

750 – 841



Webserver 機能簡易マニュアル

1.0.0 版

Copyright © 2003 by WAGO Kontakttechnik GmbH
All rights reserved.

〒136-0071 東京都江東区亀戸 1-5-7 日鐵 ND タワー

ワゴジャパン株式会社

TEL : 03-5627-2059 FAX : 03-5627-2055

WAGO Kontakttechnik GmbH

Hansastraße 27

D-32423 Minden

Phone: +49 (0) 571/8 87-0

Fax: +49 (0) 571/8 87-169

E-Mail: info@wago.com

Web: <http://www.wago.com>

Technical Support

Phone: +49 (0) 571/8 87-555

Fax: +49 (0) 571/8 87-8555

E-Mail: support@wago.com

本書の作成には万全を期しておりますが、お気づきの点やご意見がございましたら下記までお知らせください。

E-Mail: io-system_jp@wago.com

本書で使用するソフトウェアおよびハードウェアの名称ならびに会社の商号は、一般に商標法または特許法により保護されています。

本製品には、カリフォルニア大学バークレー校およびその協力者によって開発されたソフトウェアが含まれます。

目次

1 重要事項	1
1.1 法的原則.....	1
1.2 図記号.....	2
1.3 書体の使い分け.....	3
1.4 記数法.....	3
1.5 安全上の注意.....	4
1.6 適用範囲.....	5
1.7 起動に関する重要事項.....	5
1.8 略語.....	5
2 750-841 の Web Server について	6
2.1 FTP サーバー.....	6
2.2 SSI (Server Side include).....	7
2.3 HTML の作成.....	10

1 重要事項

本書が対象とするユニット類のインストールおよびスタートアップを迅速に行うために、以下の情報と説明を十分に読んで理解し、その内容を順守してください。

1.1 法的原則

1.1.1 著作権

本書は図表を含めてすべて著作権で保護されています。本書に明記された著作権条項に抵触する使用は禁じられています。複製、翻訳、電子的手段または複写による保存および修正を行うには、ワゴコンタクトテック社（ドイツ）の同意書が必要です。これに違反した場合、当社には損害賠償を請求する権利が生じます。

ワゴコンタクトテック社（ドイツ）は、技術の進展に合わせて改変を行う権利を保有します。特許または実用新案による法的保護を受けている場合、ワゴコンタクトテック社（ドイツ）はすべての権利を保有します。なお、他社製品については、常にそれらの製品名の特許権について記載しません。ただし、それらの製品に関する特許権等を除外するものではありません。

1.1.2 使用者の資格基準

本書で説明する製品は、PLC プログラミングの資格を有する技術者、電気機器の専門技術者、または適用規格を熟知している電気機器の専門技術者の指導を受けた者が必ず操作してください。不適切な作業による損害、または本書の内容を順守しないために発生したワゴ製品および他社製品の損害について、ワゴコンタクトテック社（ドイツ）は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

1.1.3 用途

使用されるコンポーネントは各用途に応じて、専用のハードウェアおよびソフトウェアコンフィグレーションで動作するようになっています。変更する場合は、必ず本書で記述された範囲内で行ってください。ハードウェアやソフトウェアに対してそれ以外の変更を加えた場合や、コンポーネントが規格に準じて使用されなかった場合は、ワゴコンタクトテック社（ドイツ）の責任範囲外となりますのでご注意ください。

改造版および/または新規のハードウェアまたはソフトウェアコンフィグレーションに関する要件については、ワゴジャパン株式会社まで直接お問い合わせください。

1.2 図記号



危険
傷害防止のため、指示内容を順守してください。



警告
装置の損傷防止のため、指示内容を順守してください。



注意
円滑な動作を確保するため、限界条件を必ず守ってください。



静電気 (ESD)
静電放電によって損傷する恐れのあるコンポーネントを示します。コンポーネントを扱う際には予防対策を行ってください。



メモ
装置の効果的な使用およびソフトウェアの最適化のための手順やヒントです。



詳細情報
本書以外の文書、マニュアル、データシート、および Web サイトに関する参照情報です。

1.3 書体の使い分け

パス名とファイル名は、イタリックで表します。

例： *C:\programs\WAGO-IO-CHECK*

メニュー項目は、**ボールドのイタリック**で表します。

例： ***Save***

連続したメニュー項目に、メニュー名の間に\を記します。

例： ***FileNew***

ボタンは、**ボールドのsmallキャピタル**で表します。

例： **ENTER**

キー類は太字で表記し、山括弧で囲みます。

例： **<F5>**

プログラムコードは、Courier フォントで表記します。

例： END_VAR

1.4 記数法

記数法	例	備考
10 進	100	通常の表記法
16 進	0x64	C での表記法
2 進	'100' '0110.0100'	' ' で囲む 4 ビットごとにドットで区切ります。

1.5 安全上の注意



注 意

バスモジュールの作業は、必ずシステムの電源を切ってから行ってください。

接点に変形している場合は、長期的な正常動作が保証されないので、疑わしいモジュールを交換する必要があります。

モジュールは、浸透性および絶縁性をもつ物質に対して耐性を持ちません。そのような物質には、エアロゾル、シリコン、トリグリセリド（ハンドクリームなどに使用される）などがあります。

この種の物質をモジュールの周辺から排除できない場合には、次のような対策が必要になります。

モジュールを適切なハウジングに収容する。

モジュールを扱うときは必ず清浄な工具または材料を使用する。



注 意

接点が汚損した場合は、必ずエチルアルコールと革布で清掃します。また、その際には静電気対策を考慮してください。

接点用スプレーは使用しないでください。最悪の場合、接点部分の機能が損なわれます。

ワゴ I/O システム 750 とそのモジュールは外気にさらされています。組立作業は必ずハウジング、キャビネット、または電気作業室にて行ってください。また、組立場所を鍵またはツールで保護し、許可された有資格者以外の入室を禁じます。

スイッチボックスの設置については、それに関連する有効かつ適用可能な規格およびガイドラインに従うものとします。



静電気 (ESD)

モジュール内の電子部品は、静電放電によって破損する場合があります。モジュールを扱う際には、作業員、作業場、包装などに対して十分な接地を行ってください。また導電性の部品（金接点など）には手を触れないように注意してください。

1.6 適用範囲

本マニュアルはワゴ I/O システム 750 における ETHERNET 10/100Mbps 対応プログラマブルフィールドバスコントローラの WEBServer 機能および取扱いを記述したものです。



注 意

750-841 の WEBServer 機能は 2005 年 1 月現在、特許の制限によりアメリカ、カナダ、オーストラリアでは使用できません。

型 番	説 明
750-841	Ethernet 10/100Mbps 対応プログラマブルフィールドバスコントローラ

1.7 起動に関する重要事項



注 意

コントローラ 750-841 の起動手順はコントローラ 750-842 の場合と大きく異なる点があるため、重要な注意事項に留意してください。詳しくは 750-841 クイックスタート及びハードウェア取扱説明書をご覧ください。

1.8 略 語

AI	アナログ入力
AO	アナログ出力
BC	バスカプラ
DI	デジタル入力
DO	デジタル出力
I/O	入出力
ID	識別子、識別
ISO/OSI	国際標準化機構 / Open Systems Interconnection (参照モデル)
PFC	プログラマブルフィールドバスコントローラ

2 750-841 の Web Server について

2.1 FTP サーバー

FTP (File Transfer Protocol) を使用すると、OS に関係なく異なるネットワーク機器どうしてファイルをやりとりすることができます。

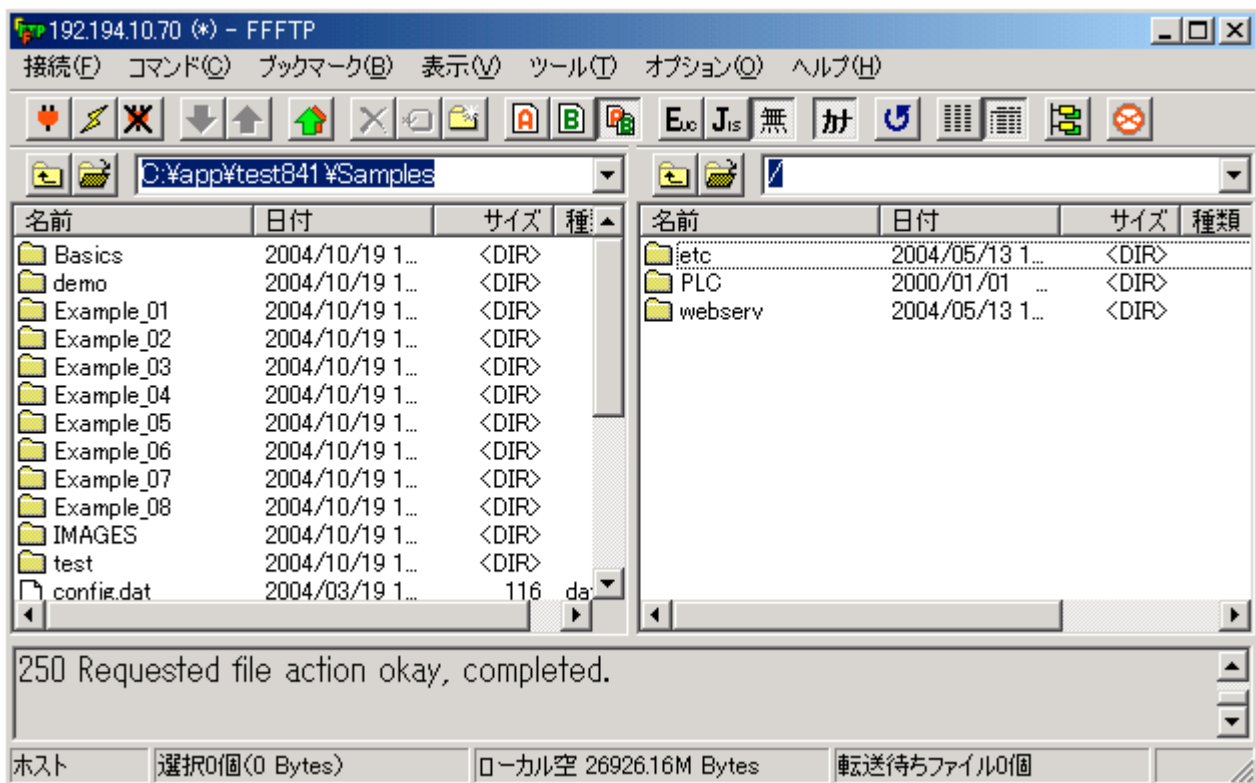
Ethernet 型コントローラの場合、フィールドバスコントローラに保存されているユーザ作成のHTML ページ、PFC プログラム、およびPFC ソースコードの保存と読み出しを、FTP を使って行います。(HTMLページのアップロードにはFFFTPなどのフリーソフトをご利用ください)

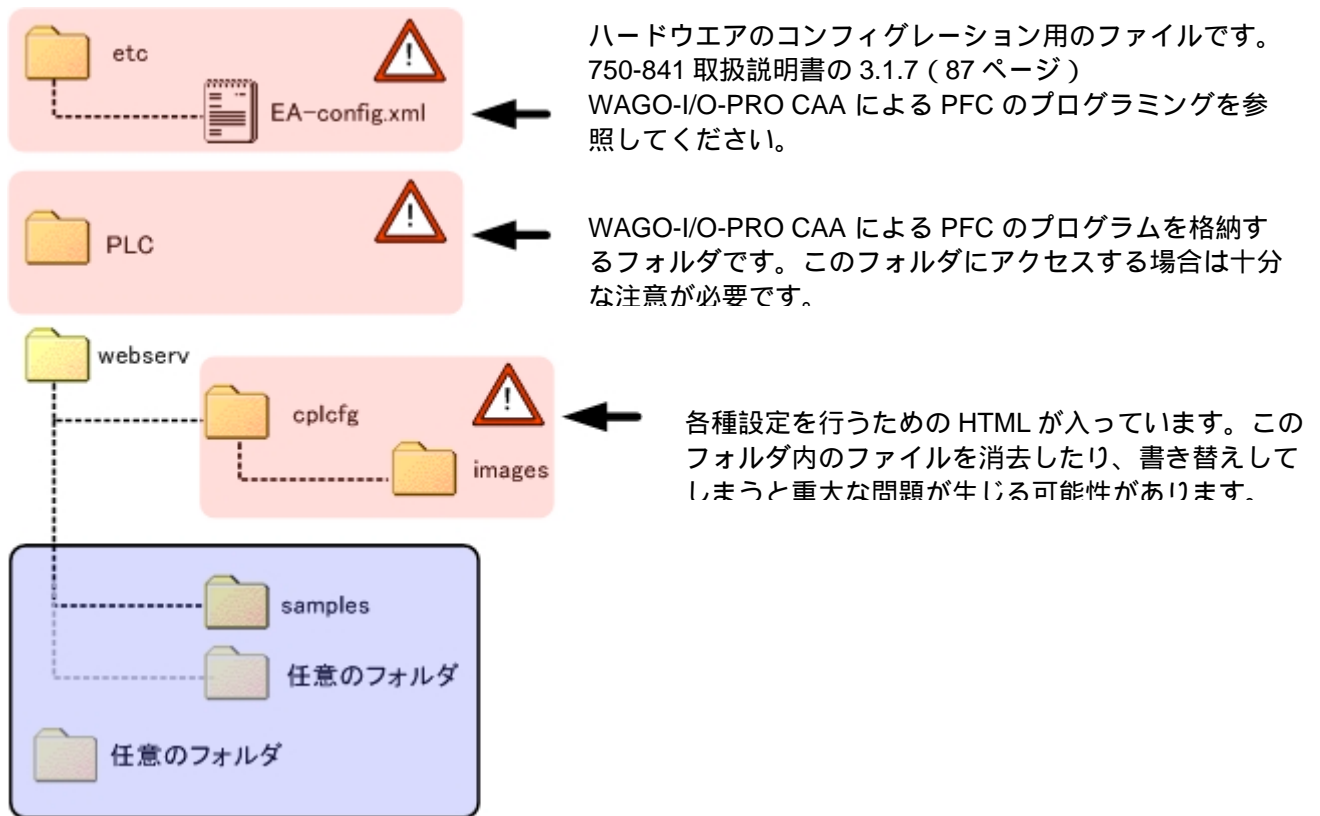
ファイルシステムには合計1.5MB のメモリが用意されています。ファイルシステムはRAM ディスクに置かれます。データをRAM ディスクに恒久的に保存するため、情報はさらにフラッシュメモリにコピーされます。データはファイルをクローズした後にフラッシュメモリに記憶されます。この保存処理により、書き込みサイクルにおけるアクセス時間は長くなります。

PFCプログラムやPFCソースコードにも使用しますのでHTMLページは1MB以内で使用することを推奨いたします。その他にPFCプログラムで任意のファイルを作成することができますがその容量についてもご注意ください。

メモ

ファイルシステムのフラッシュメモリへの書き込みについては、最大100万回の書き込みサイクルが可能です。





ユーザー作成の HTML ページはブラウザで認識できる名前の任意のフォルダ（例 user など）を作成するか samples フォルダにアップロードしてください。

2.2 SSI (Server Side include)

750-841 の実 I/O や内部メモリと HTML 間のやりとりは SSI (Server Side Include) で行います。<!--#READPI ADR=IW0&FORMAT=%d--> のように<!--# -->で囲まれた、サーバー側で認識し動作するコマンドです。この場合ファイルの拡張子は.ssi か.xml である必要があります。.shtm や.shtml では 750-841 は認識しません。

2.2.1 SSI プラグイン

SSI プラグイン	機能
<!--#READPI ADR=IW0&FORMAT=%x-->	プロセスイメージの読出し
<!--#WRITEPI ADR1=MW0&VALUE1=1234&FORMAT1=%d-->	プロセスイメージの書込み
<!--#GETTIMEDATE FORMAT=%d.%m.%y %H:%M:%S -->	日付時刻の読出し

*太字部が次頁で示すアドレスパラメータです。

注意: WRITEPI プラグインでは直接実出力 (Q 領域) を操作できません。これは PFC 内部のプログラムと干渉する危険があるため出力する場合は内部アドレス (M 領域) を経由して PFC 上のプログラムで行ってください。

2.2.2 アドレスパラメータ

750-841 プロセスイメージ (アドレス)			内 容
I			実入力 (読出しのみ)
Q			実出力 (読出しのみ)
M			内部メモリ (読み書き可能)
	X		ビット
	B		バイト
	W		ワード
	D		ダブルワード
		Y	バイト・ワード・ダブルワードアドレス
		Y.Z	ビットアドレス

2.2.3 アドレスパラメータ表現方法

実入力	ワード	1 番目 (読出しのみ)
I	W	0
実入力	ビット	1 番目 (読出しのみ)
I	X	0.0
実出力	ワード	1 番目 (読出しのみ)
Q	W	0
実出力	ビット	1 番目 (読出しのみ)
Q	X	0.0
内部	ワード	1 番目 (読み書き可能)
M	W	0
内部	ビット	1 番目 (読み書き可能)
M	X	0.0

*I/O の構成とアドレスパラメータの関係は 750-841 取扱説明書の 3.1.4 プロセスイメージの頁を参照してください。

2.2.4 プロセスイメージの読出し

プロセスイメージを読出す場合は下記コマンドの ADR (アドレス) と FORMAT (書式) を指定します。

```
<!--#READPI ADR=IW0&FORMAT=%x-->
```

ADR (アドレス) については 2.2.2 を参照してください。

FORMAT は %x で 16 進数表記、%d で 10 進数表記になります。

2.2.5 プロセスイメージの書込み

プロセスイメージに書込む場合は下記コマンドの ADR (アドレス) と VALUE (書込む値) と FORMAT (書式) を指定します。

書込みできるアドレスは内部メモリ (M 領域) のみとなっております。

ADR、VALUE、FORMAT の後ろの数字はデータ転送するためのインデックスでひとつの HTML に対して 1~24 まで使用できます。

```
<!--#WRITEPI ADR1=MW0&VALUE1=1234&FORMAT1=%x-->
```

|

```
<!--#WRITEPI ADR24=MW0&VALUE24=1234&FORMAT24=%d-->
```

ADR (アドレス) については 2.2.2 を参照してください。

FORMAT は %x で 16 進数表記、%d で 10 進数表記になります。

2.2.6 日付時刻の取得

日付時刻の取得は下記コマンドの FORMAT (書式) を指定します。

大文字小文字は区別されますのでご注意ください。

```
<!--#GETTIMEDATE FORMAT=%d.%m.%y %H:%M:%S -->
```

%d 日、%m 月、%y 年

%H 時、%M 分、%S 秒

順序の入れ替えは可能です。間に文字を入れることも可能です。

例:<!--#GETTIMEDATE FORMAT=%y年%m月%d日 %H:%M:%S -->

下記のように表示されます。

05年02月14日10:10:00

2.3 HTML の作成

下記の構成でサンプルプログラムを作成します。

構成

750-841	イーサネットバスコントローラ
750-400	2ch デジタル入力モジュール
750-501	2ch デジタル出力モジュール
750-469	2ch 熱電対入力モジュール
750-600	終端モジュール

アドレス

(750-841 取扱説明書の 3.1.4 プロセスイメージの頁を参照してください。)

750-400 の 1ch 目	IX2.0
750-400 の 2ch 目	IX2.1
750-501 の 1ch 目	QX0.0
750-501 の 2ch 目	QX0.1
750-469 の 1ch 目	IW0
750-469 の 2ch 目	IW1

2.3.1 シンプルな HTML

ここでは熱電対の入力とデジタル入力のデジタル出力表示を行います。

ファイル名 html_ssi.ssi

```
<html>
<body>
<H2> HTML & SSI </H2>
<P> HTML 内に I/O プロセスイメージを表示 </P>
<TABLE align="center" border="1">
<TR>
<TH width="150" align="left" bgcolor="#d5deec"> I/O アドレス </TH>
<TH width="100" align="center" bgcolor="#d5deec"> 値 </TH>
<TH width="100" align="center" bgcolor="#d5deec"> 単位 </TH>
<TH width="100" align="center" bgcolor="#d5deec"> タイムスタンプ </TH>
</TR>
<TR> <TD align="left" bgcolor="#d5deec"> %IW0 ( 750-469 ) の 1ch </TD>
<TD align="center" bgcolor="#f5f5f5">
<!--#READPI ADR=IW0&FORMAT=%d-->
```

```

</TD>
<TD align="center" bgcolor="#f5f5f5">dec</TD>
<TD align="left" bgcolor="#f5f5f5">
  <!--#GETTIMEDATE FORMAT=%d.%m.%y %H:%M:%S -->
</TD>
</TR>
<TR> <TD align="left" bgcolor="#d5deec">%IW0 ( 750-469 ) の 1ch</TD>
  <TD align="center" bgcolor="#f5f5f5">
    <!--#READPI ADR=IW0&FORMAT=%x-->
  </TD>
  <TD align="center" bgcolor="#f5f5f5">hex</TD>
  <TD align="left" bgcolor="#f5f5f5">
    <!--#GETTIMEDATE FORMAT=%d.%m.%y %H:%M:%S -->
  </TD>
</TR>
<TR>
<TR>
  <TD align="left" bgcolor="#d5deec">%IW1 ( 750-469 ) の 2ch</TD>
  <TD align="center" bgcolor="#f5f5f5">
    <!--#READPI ADR=IW1&FORMAT=%d-->
  </TD>
  <TD align="center" bgcolor="#f5f5f5">dec</TD>
  <TD align="left" bgcolor="#f5f5f5">
    <!--#GETTIMEDATE FORMAT=%d.%m.%y %H:%M:%S -->
  </TD>
</TR>
<TR>
<TR>
  <TD align="left" bgcolor="#d5deec">%IW1 ( 750-469 ) の 2ch</TD>
  <TD align="center" bgcolor="#f5f5f5">
    <!--#READPI ADR=IW1&FORMAT=%x-->
  </TD>
  <TD align="center" bgcolor="#f5f5f5">hex</TD>
  <TD align="left" bgcolor="#f5f5f5">
    <!--#GETTIMEDATE FORMAT=%d.%m.%y %H:%M:%S -->
  </TD>
</TR>
<TR>
<TR>
  <TD align="left" bgcolor="#d5deec">デジタル入力</TD>
  <TD align="center" bgcolor="#f5f5f5">
    <!--#READPI ADR=IW2&FORMAT=%x-->
  </TD>
  <TD align="center" bgcolor="#f5f5f5">AsWord</TD>
  <TD align="left" bgcolor="#f5f5f5">
    <!--#GETTIMEDATE FORMAT=%d.%m.%y %H:%M:%S -->
  </TD>
</TR>
<TR>
<TR>
  <TD align="left" bgcolor="#d5deec">デジタル出力</TD>
  <TD align="center" bgcolor="#f5f5f5">
    <!--#READPI ADR=QW0&FORMAT=%x-->
  </TD>
  <TD align="center" bgcolor="#f5f5f5">AsWord</TD>
  <TD align="left" bgcolor="#f5f5f5">
    <!--#GETTIMEDATE FORMAT=%d.%m.%y %H:%M:%S -->
  </TD>
</TR>
</TR>
</TABLE>
</body>
</html>

```

ブラウザでの実行結果



I/Oアドレス	値	単位	タイムスタンプ
%IWO (750-469) の1ch	212	dec	18:02:05 13:37:04
%IWO (750-469) の1ch	d4	hex	18:02:05 13:37:04
%IWI (750-469) の2ch	214	dec	18:02:05 13:37:04
%IWI (750-469) の2ch	d8	hex	18:02:05 13:37:04
デジタル入力	1	bit	18:02:05 13:37:04
デジタル出力	0	bit	18:02:05 13:37:04

2.3.2 FORM を使用

FORM を使用して内部メモリ（M領域）の読み書きを行います。

ファイル名 Form_ssi.ssi

```
<FORM action="/WRITEPI" method="POST" >
<TABLE align="center" border="1">
  <THEAD>
    <TH width="150" align="left" bgcolor="#d5deec"> 名称 </TH>
    <TH width="100" align="left" bgcolor="#d5deec"> アドレス </TH>
    <TH width="100" align="left" bgcolor="#d5deec"> 値</TH>
    <TH width="25" align="center" bgcolor="#d5deec">Format</TH>
    <TH width="150" align="center" bgcolor="#d5deec"> タイムスタンプ</TH>
  </THEAD>
  <TR>
    <TD align="left" bgcolor="#d5deec"> データ 1</TD>
    <TD>
      <input type="text" name="ADR1" value="MW10" >
    </TD>
    <TD align="center" bgcolor="#f5f5f5">
      <input type="text" name="VALUE1" value="<!--#READPI
ADR=MW10&FORMAT=%d-->" >
    </TD>
    <TD>
      <input type="text" name="FORMAT1" value="%d" >
    </TD>
    <TD align="left" bgcolor="#f5f5f5">
      <!--#GETTIMEDATE FORMAT=%d.%m.%y %H:%M:%S -->
    </TD>
  </TR>
  <TR>
    <TD align="left" bgcolor="#d5deec"> データ 2 </TD>
    <TD>
      <input type="text" name="ADR2" value="MW11">

```

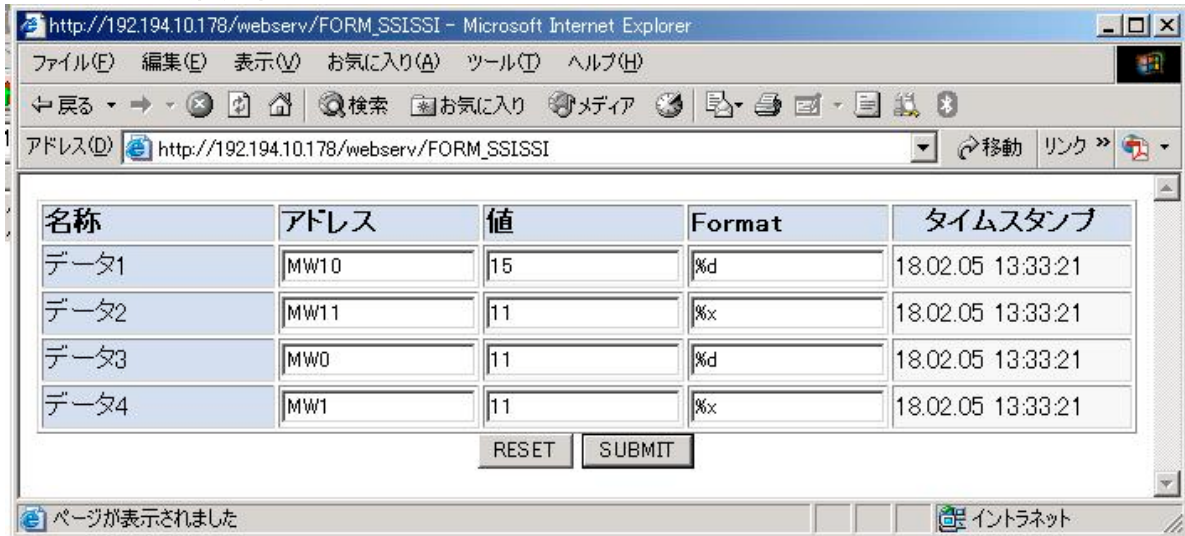


```

</TD>
<TD align="center" bgcolor="#f5f5f5">
  <input type="text" name="VALUE2" value="<!--#READPI
ADR=MW1&FORMAT=%x-->">
</TD>
<TD>
  <input type="text" name="FORMAT2" value="%x">
</TD>
<TD align="left" bgcolor="#f5f5f5">
  <!--#GETTIMEDATE FORMAT=%d.%m.%y %H:%M:%S -->
</TD>
</TR>
<TR>
<TD align="left" bgcolor="#d5deec"> データ 3 </TD>
<TD>
  <input type="text" name="ADR3" value="MW0">
</TD>
<TD align="center" bgcolor="#f5f5f5">
  <input type="text" name="VALUE3" value="<!--#READPI
ADR=MW0&FORMAT=%d-->">
</TD>
<TD>
  <input type="text" name="FORMAT3" value="%d">
</TD>
<TD align="left" bgcolor="#f5f5f5">
  <!--#GETTIMEDATE FORMAT=%d.%m.%y %H:%M:%S -->
</TD>
</TR>
<TR>
<TD align="left" bgcolor="#d5deec"> データ 4</TD>
<TD>
  <input type="text" name="ADR4" value="MW1">
</TD>
<TD align="center" bgcolor="#f5f5f5">
  <input type="text" name="VALUE4" value="<!--#READPI
ADR=MW1&FORMAT=%x-->">
</TD>
<TD>
  <input type="text" name="FORMAT4" value="%x">
</TD>
<TD align="left" bgcolor="#f5f5f5">
  <!--#GETTIMEDATE FORMAT=%d.%m.%y %H:%M:%S -->
</TD>
</TR>
</TABLE>
<DIV align="center">
  <INPUT type="RESET" value="RESET">
  <INPUT type="SUBMIT" value="SUBMIT" name="SUBMIT">
</DIV>
</FORM>

```

ブラウザでの実行結果



2.3.3 JAVA スクリプトを使用

JAVA スクリプトを使用してアナログ値の演算結果とデジタル入力の画像表示を行います。（ブラウザ側で 5 秒毎に更新）

ファイル名 `realdata.ssi`

```

<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.0 Frameset//EN">
<!--realdata.ssi-->
<HTML>
<HEAD>
<META HTTP-EQUIV="Refresh" CONTENT="5">
</HEAD>
<H2 align="center"> 現在値データ表示 </H2>
<script language="JavaScript">
function changeImage(){
  var WordData1
  var WordData2
  var WordData5
  var WordData6
  var WordData7
  var WordData8

  WordData1=<!--#READPI ADR=IW0&FORMAT=%d-->;
  WordData2=<!--#READPI ADR=IW1&FORMAT=%d-->;
  WordData5=<!--#READPI ADR=IX2.0&FORMAT=%d-->;
  WordData6=<!--#READPI ADR=IX2.1&FORMAT=%d-->;
  WordData7=<!--#READPI ADR=IX2.2&FORMAT=%d-->;
  WordData8=<!--#READPI ADR=IX2.3&FORMAT=%d-->;

  if(WordData5==1){
    document.myimg5.src="on.gif";
  }else {
    document.myimg5.src="off.gif";
  }
}

```

```

    }
    if(WordData6==1){
        document.myimg6.src="on.gif";
    }else {
        document.myimg6.src="off.gif";
    }
    if(WordData7==1){
        document.myimg7.src="on.gif";
    }else {
        document.myimg7.src="off.gif";
    }
    if(WordData8==1){
        document.myimg8.src="on.gif";
    }else {
        document.myimg8.src="off.gif";
    }
    }

    var Grad1= WordData1/10;
    document.TempForm.TempData1.value = Grad1 + " ";
    var Grad2= WordData2/10;
    document.TempForm.TempData2.value = Grad2 + " ";
}
</script>
</HEAD>

<BODY bgcolor="#d5de55" onLoad="changeImage()">

<CENTER>
<TABLE align="center" border="1">
  <TR>
    <TH width="150" align="center" bgcolor="#d5de55">
      デジタル入力 1
    </TH>
    <TH width="150" align="center" bgcolor="#d5de55">
      デジタル入力 2
    </TH>
    <TH width="150" align="center" bgcolor="#d5de55">
      デジタル入力 3
    </TH>
    <TH width="150" align="center" bgcolor="#d5de55">
      デジタル入力 4
    </TH>
  </TR>
  <TR>
    <TH width="150" align="center" bgcolor="#FFFFFF">
      <IMG src="none.gif" name="myimg5">
    </TH>
    <TH width="150" align="center" bgcolor="#FFFFFF">
      <IMG src="none.gif" name="myimg6">
    </TH>
    <TH width="150" align="center" bgcolor="#FFFFFF">
      <IMG src="none.gif" name="myimg7">
    </TH>
    <TH width="150" align="center" bgcolor="#FFFFFF">
      <IMG src="none.gif" name="myimg8">
    </TH>
  </TR>
</TABLE>

```

```
<form name="TempForm"> <br>
<TABLE align="center" border="1">
  <TR>
    <TH width="150" align="center" bgcolor="#d5de55">
      温度 1
    </TH>
    <TH width="150" align="center" bgcolor="#d5de55">
      温度 2
    </TH>

  </TR>
  <TR>
    <TH width="150" align="center" bgcolor="#d5deec">
      <input type="text" name="TempData1"></input>
    </TH>
    <TH width="150" align="center" bgcolor="#d5deec">
      <input type="text" name="TempData2"></input>
    </TH>

  </TR>
</TABLE>
</form>

</CENTER>
</BODY>
</HTML>
```

ブラウザでの実行結果



2.3.4 XML と XSL を使用

一定時間ごとに内部メモリ（M領域）にデータを転送するプログラムを WAGO-I/O-PRO CAA でプログラミングしています。そのデータを XML 化して XSL で表示しています。

ファイル名 logdata.htm（このファイルで XML と XSL を統合しています）

```
<html>
<!--logdata.htm-->
<HEAD><META HTTP-EQUIV="Refresh" CONTENT="10"></HEAD>
<H2 align="center" >
  内部メモリを表形式で表示します。（XML を使用しています）
</H2>
<body bgcolor="#d5dedd">

<Script language="JavaScript" type="text/javascript">
  // Read data from XML-File
  var MyData = new ActiveXObject("Microsoft.XMLDOM")
  MyData.async = false
  MyData.load("logdata.xml")

  // Read style from XSL-File
  var MyStyle = new ActiveXObject("Microsoft.XMLDOM")
  MyStyle.async = false
  MyStyle.load("logdata.xsl")

  // Transform data and style to HTML-Presentation
```

```

    document.write(MyData.transformNode(MyStyle))
  </Script>
  <div>
    * 温度は 10 倍値で表示しています。
  </div>
  <H4>
    Copyright 2003 WAGO COMPANY OF JAPAN
  </H4>
</body>
</html>

```

ファイル名 logdata.xml

```

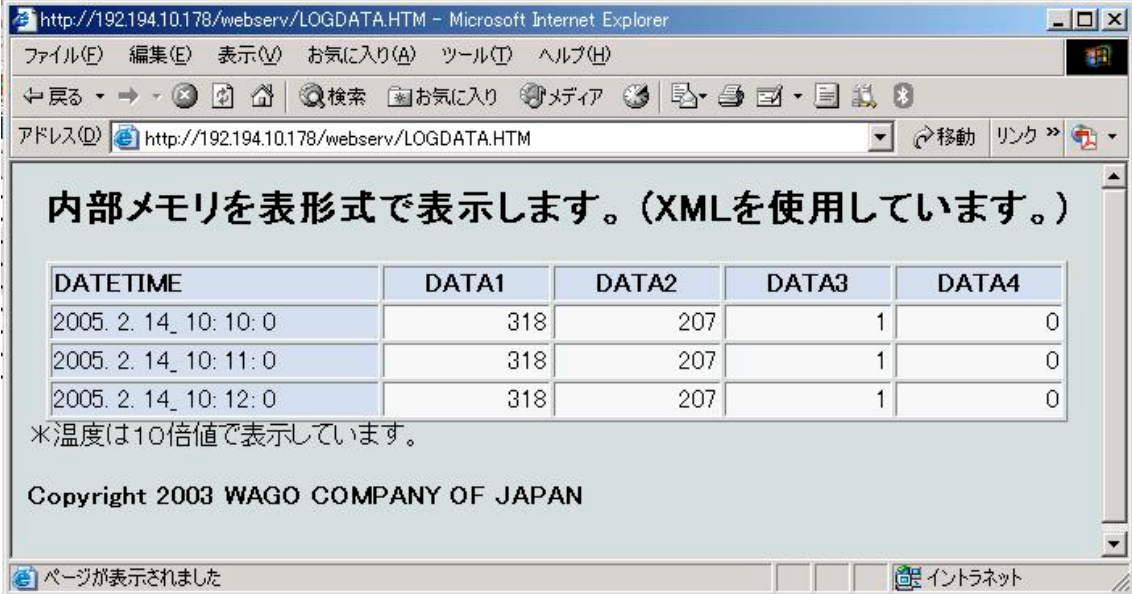
<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
<!--logdata.xml-->
<DataPoints>
  <DataPoint>
    <DT>
      <!--#READPI ADR=MW0&FORMAT=%d-->.
      <!--#READPI ADR=MW1&FORMAT=%d-->.
      <!--#READPI ADR=MW2&FORMAT=%d-->_
      <!--#READPI ADR=MW3&FORMAT=%d-->:
      <!--#READPI ADR=MW4&FORMAT=%d-->:
      <!--#READPI ADR=MW5&FORMAT=%d-->
    </DT>
    <D1><!--#READPI ADR=MW6&FORMAT=%d--> </D1>
    <D2><!--#READPI ADR=MW7&FORMAT=%d--> </D2>
    <D3><!--#READPI ADR=MW8&FORMAT=%d--> </D3>
    <D4><!--#READPI ADR=MW9&FORMAT=%d--> </D4>
  </DataPoint>
  <DataPoint>
    <DT>
      <!--#READPI ADR=MW10&FORMAT=%d-->.
      <!--#READPI ADR=MW11&FORMAT=%d-->.
      <!--#READPI ADR=MW12&FORMAT=%d-->_
      <!--#READPI ADR=MW13&FORMAT=%d-->:
      <!--#READPI ADR=MW14&FORMAT=%d-->:
      <!--#READPI ADR=MW15&FORMAT=%d-->
    </DT>
    <D1><!--#READPI ADR=MW16&FORMAT=%d--> </D1>
    <D2><!--#READPI ADR=MW17&FORMAT=%d--> </D2>
    <D3><!--#READPI ADR=MW18&FORMAT=%d--> </D3>
    <D4><!--#READPI ADR=MW19&FORMAT=%d--> </D4>
  </DataPoint>
  <DataPoint>
    <DT>
      <!--#READPI ADR=MW20&FORMAT=%d-->.
      <!--#READPI ADR=MW21&FORMAT=%d-->.
      <!--#READPI ADR=MW22&FORMAT=%d-->_
      <!--#READPI ADR=MW23&FORMAT=%d-->:
      <!--#READPI ADR=MW24&FORMAT=%d-->:
      <!--#READPI ADR=MW25&FORMAT=%d-->
    </DT>
    <D1><!--#READPI ADR=MW 26&FORMAT=%d--> </D1>
    <D2><!--#READPI ADR=MW 27&FORMAT=%d--> </D2>
    <D3><!--#READPI ADR=MW 28&FORMAT=%d--> </D3>
    <D4><!--#READPI ADR=MW 29&FORMAT=%d--> </D4>
  </DataPoint>
</DataPoints>

```

ファイル名 logdata.xsl

```
<xsl:stylesheet xmlns:xsl="http://www.w3.org/TR/WD-xsl">
<xsl:template>
<!--logdata.xsl-->
<TABLE align="center" border="1">
  <TR>
    <TH width="200" align="left" bgcolor="#d5deec">
      DATETIME
    </TH>
    <TH width="100" align="center" bgcolor="#d5deec">
      DATA1
    </TH>
    <TH width="100" align="center" bgcolor="#d5deec">
      DATA2
    </TH>
    <TH width="100" align="center" bgcolor="#d5deec">
      DATA3
    </TH>
    <TH width="100" align="center" bgcolor="#d5deec">
      DATA4
    </TH>
  </TR>
  <xsl:for-each select="DataPoints/DataPoint">
    <TR>
      <TD align="LEFT" bgcolor="#d5deec">
        <xsl:value-of select="DT"/>
      </TD>
      <TD align="RIGHT" bgcolor="#f5f5f5">
        <xsl:value-of select="D1"/>
      </TD>
      <TD align="RIGHT" bgcolor="#f5f5f5">
        <xsl:value-of select="D2"/>
      </TD>
      <TD align="RIGHT" bgcolor="#f5f5f5">
        <xsl:value-of select="D3"/>
      </TD>
      <TD align="RIGHT" bgcolor="#f5f5f5">
        <xsl:value-of select="D4"/>
      </TD>
    </TR>
  </xsl:for-each>
</TABLE>
</xsl:template>
</xsl:stylesheet>
```

ブラウザでの実行結果



The screenshot shows a Microsoft Internet Explorer browser window displaying a web page. The address bar shows the URL `http://192.194.10.178/webserv/LOGDATA.HTM`. The page content includes a heading, a table with five columns (DATETIME, DATA1, DATA2, DATA3, DATA4), a note about temperature values, and a copyright notice.

内部メモリを表形式で表示します。(XMLを使用しています。)

DATETIME	DATA1	DATA2	DATA3	DATA4
2005. 2. 14_ 10: 10: 0	318	207	1	0
2005. 2. 14_ 10: 11: 0	318	207	1	0
2005. 2. 14_ 10: 12: 0	318	207	1	0

*温度は10倍値で表示しています。

Copyright 2003 WAGO COMPANY OF JAPAN

ここで使用しているサンプルは ex841.zip というファイル名で HP から DL できるようになっております。

ワゴジャパン株式会社

I/O グループ

〒136-0071

東京都江東区亀戸 1-5-7 日鐵 ND タワー4F

TEL : 03-5627-2059

FAX : 03-5627-2055

URL : <http://www.wago.co.jp/io>

E-Mail: io-system_jp@wago.com

